# CS第1 テーマ2

## <mark>テーマ2の目標</mark> プログラミング体験

プログラミングのために開発された技法を学ぶ

- 配列, 文字列
- 関数(サブルーチン)

#### レポート課題

課題2 循環小数

課題3 暗号解読に挑戦

#### 本日の講義内容

- 1. 配列とその使い方 <sup>宿題</sup>
- 2. 文字列の処理方法 <sup>宿題</sup>

# CS第1 演習ガイド

- 1. ログインする.
- 2. Terminal を動かす
- 3. 講義のウェブページから プログラム をダウンロードする.
  - Downloads(ダウンロード)フォルダに day3.zip が展開される
- 4. Terminal で day3 をCS1 に移動
  - cd Documents/CS1
  - mv ~/Downloads/day3 ./
  - cd day3

CotEditor でファイルを開くには

\$ open -a coteditor ファイル名

## ターミナルの便利な機能

- 補完: TAB キーで、ファイル名等を補完できる
- 履歴:↑キーで過去に入力したコマンドを出せる

複数回↑を押すと古いコマンドに戻っていく

## 1. 配列(リスト)

• 要素(値)を一列に並べたもの

要素を上書きできる

要素の参照: a[i]

- 添え字(インデックス) i の要素
- 添え字 ≈ 位置 ( 0 から 要素数 1 )

要素の代入: a[i] = e

添え字(インデックス) i の要素を e の計算結果で置き 換える

配列の長さ(要素数):len(a)

## 配列:使ってみよう

```
$ python
>>> a = [3, 1, 4, 1, 5, 9, 2]
>>> a
[3, 1, 4, 1, 5, 9, 2]
>>> a[0]
3
>>> a[4]
5
>>> a[4] = 7
>>> a[4]
>>> a
[3, 1, 4, 1, 7, 9, 2]
>>> len(a)
```

新しい配列を作成し変数 a に代入 配列 a の値を確認(参照)

配列aの添え字Oの値を参照

配列 a の添え字 4 に値 7 を代入

配列の長さ(要素数)

#### 復習:アニメーションプログラムの例

## プログラム smile.py

大きな数を各変数に格納(絵のデザイン)

#### 画面への出力

```
t = 0
while t < 30:
   print(d1)
   print(d2)
   print(d3)
   print(d4)
   print(d5)
   print(d6)
   print(d7)
   print(d8)
   print(d9)
   print(d10)
   print()
   time.sleep(0.1)
   t = t + 1
```



めんどう



めんどうだけど これはしょうがない

#### 復習:アニメーションプログラムの例

## プログラム smile.py

#### 大きな数を配列に格納

#### 

#### 配列d

d[ 0 ]	
d[ 1 ]	
d[ 2 ]	
d[ 3 ]	
d[ 4 ]	
d[ 5 ]	
d[ 6 ]	
d[ 7 ]	
d[8]	
d[ 9 ]	

## 復習:アニメーションプログラムの例

プログラム smile.py 画面への出力

```
t = 0
while t < 30:
   print( d[ 0 ] )
                                t = 0
   print( d[ 1 ] )
                                while t < 30:
   print( d[ 2 ] )
                                    k = 0
   print( d[ 3 ] )
                                   while k < 10:
   print( d[ 4 ] )
                                      print( d[ k ] )
   print( d[ 5 ] )
                                      k = k + 1
   print( d[ 6 ] )
                                   print()
   print( d[ 7 ] )
                                   time.sleep(0.1)
   print( d[ 8 ] )
                                    t = t + 1
   print( d[ 9 ] )
   print()
   time.sleep(0.1)
   t = t + 1
```

# 繰り返し: for 文

```
for i in range(n):
ブロック
```

変数 i の値を 0 から n − 1 まで変えて, ブロックを実行

n:計算結果が整数になる式

```
for i in range(m,n):
ブロック
```

変数 i の値を m から n-1 まで変えて, ブロックを実行

#### 復習:アニメーションプログラムの例

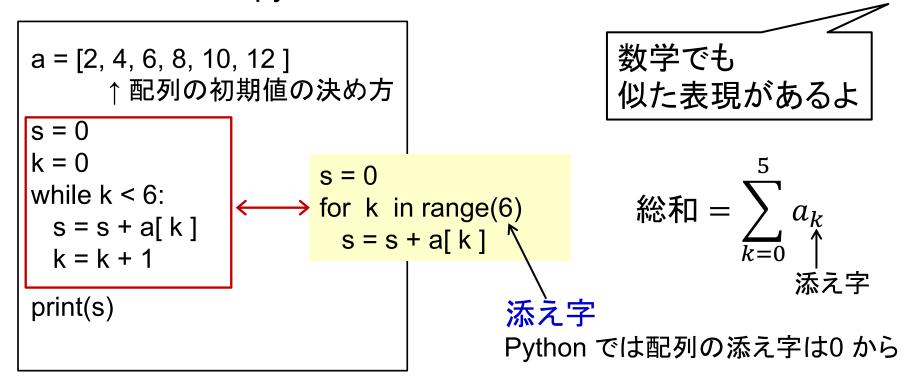
```
プログラム smile.py 画面への出力
```

```
t = 0
while t < 30:
   print( d[ 0 ] )
                              t = 0
  print( d[ 1 ] )
                               while t < 30:
   print( d[ 2 ] )
                                 k = 0
   print( d[ 3 ] )
                                                                  for k in range(10):
                                 while k < 10:
   print( d[ 4 ] )
                                   print( d[ k ] )
                                                                       print( d[ k ] )
   print( d[ 5 ] )
                                   k = k + 1
   print( d[ 6 ] )
                                 print()
   print( d[ 7 ] )
                                 sleep(0.1)
   print( d[ 8 ] )
                                 t = t + 1
   print( d[ 9 ] )
   print()
   time.sleep(0.1)
   t = t + 1
                                                                   先週習いたかった!!
```

## 同種のデータを多数扱うときに便利

例:6個の総和を求める

#### プログラム sum6.py



#### 例:不定個の総和を求める

$$\sum_{k=0}^{n} a_k$$

#### プログラム sum.py

```
a = list(map(int, input().split()))
n = len(a)
# 以下が総和の計算部分
s = 0
for k in range(n):
s = s + a[k]
print(s)
```

\$ python sum.py -3 8 19 -4 20

実行例

個々に空白で区切る 改行がデータの終わり

整数を配列に入力する方法.(これは決まり文句)

「len(配列)」で配列の要素数が得られる.

# 1. 配列 (Python での使い方)

#### 例:最大値を求める

 $\max(a_0, a_1, ..., a_n)$ 

max.py

```
a = list(map(int, input().split()))
n = len(a)
```

```
max = -100000 # マイナス無限大と言える数 maxj = -1 # 最大値のインデックス for j in range(n):
```

# 宿題 (1)

```
print(max)
print(maxj)
```

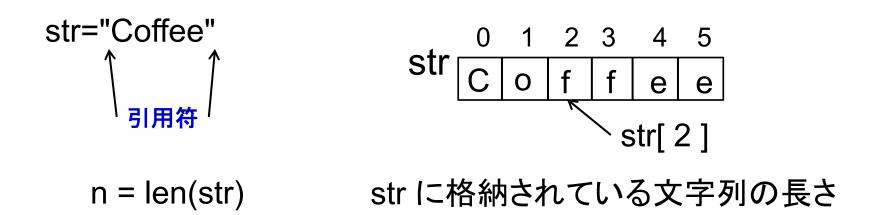
```
$ python max.py
-3 8 19 -4
19
2
```

実行例

最大値19が 添え字2にある

## 2. 文字列

# 文字が並んだもの(1文字の場合もある)



引用符は、シングルクォート、ダブルクォートどちらでも良い

## 文字列: 使ってみよう

```
$ python
>>> 'Japan'
'Japan'
>>> "Japan"
'Japan'
>>> s = "Tokyo"
>>> <u>$</u>
'Tokyo'
>>> s[0]
>>> s[2]
'k'
>>> len(s)
5
>>> s + "Tech"
'TokyoTech'
```

文字列定数:シングルクォート

文字列定数:ダブルクォート

文字列 Tokyo を変数 s に代入 変数 s の値を確認(参照)

文字列sの添え字Oの文字を参照

文字列sの長さ

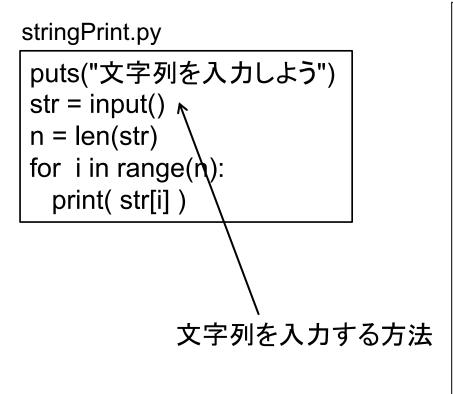
文字列の連結

## 多重定義された演算子

```
$ python
>>> 3 + 8
11
>>> "Tokyo"+"Tech"
'TokyoTech'
>>> "Tokyo" + 8
Traceback (most recent call last):
 File "<stdin>", line 1, in <module>
TypeError: can only concatenate str (not "int") to str
```

## 2. 文字列

## 文字が並んだもの(1文字の場合もある)



```
$ python stringPrint.py
文字列を入力しよう
Ice%%cream
C
e
%
%
C
e
a
m
m
```

実行例

### 文字と文字コード ASCII

- ・文字もコンピュータ内では数字(正確には2進列)で表わされる
- 文字を2進列で表すこと(または表したもの)を文字コードという
- ・文字コードはいろいろあるが、英数字を表すもので世界的に 最も普及しているのが ASCII である

**ASCII** (American Standard Code for Information Interchange)

- 1文字を7ビットで表現 (1ビット付加して1バイト使う) コード 0 ~ 127
  - アルファベットa~z:97~122
  - アルファベットA~Z:65~90
  - 数字 0~9:48~57
  - その他の記号など
    - スペース:32, +:43

## Python: 文字と文字コード の変換

- ord:文字からASCⅡ コードに変換
- chr: ASCIIコードから文字に変換

#### 実行例

```
>>> ord("a")
97
>>> ss = "Cabcz"
>>> ss[2]
'b'
>>> ord(ss[2])
98
```

```
>>> chr(97)
'a'
>>> chr(97+25)
'z'
>>> chr(ord("b"))
'b'
```

# その他の文字コード

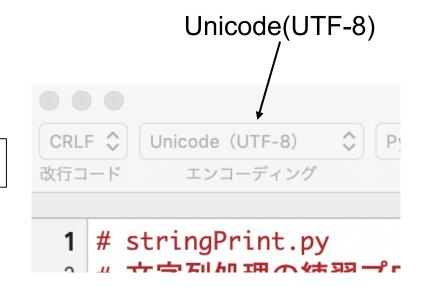
- 日本語
  - JIS(ISO-2022-JP)
    - 漢字: 2バイト
    - 漢字とASCII を特殊な文字列(エス ケープシーケンス)で切り替える
  - Shift-JIS
  - EUC

## その他の文字コード

- Unicode (世界中の文字を表現)
  - UTF-8
    - 1文字: 1バイト ~ 4バイト
    - 0~127はASCIIと一致
    - Python (バージョン3)はUTF-8を使う
  - UTF-16
    - 1文字: 16ビット(2バイト) or 4バイト
  - UTF-32

文字コードを確認してみよう

\$ open -a coteditor stringPrint.py



## 2. 文字列(Python での使い方)

例:英小文字のみ画面に出す

英小文字のみ画面に出力するプログラムを作ろう!

#### abcPrint.py

```
print("文字列を入力しよう")
ss = input()
leng = len(ss)
for i in range(leng):
   if ???:
    print(ss[i])
```

ヒント: a の ASCII = 97 ~ z の ASCII = 122

```
$ python abcPrint.py
文字列を入力しよう
Ice%%cream
c
e
c
r
e
a
m
```

# CS第1 レポート課題2(予告)

## 課題 循環小数の循環を止めよ!

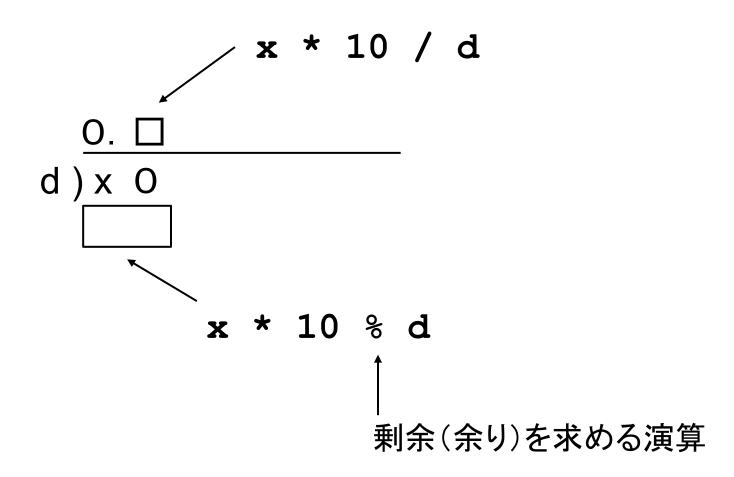
配列は同じようなデータを統一的に処理するには便利な道具だが、それ以外にも賢い使い方がいくつかある. その例を考えてみよう.

```
junkan.py
print("分母 d を下さい")
d = int(input())
print("1 / ", d, " を求めます")
stop = False
leng = 0
x = 1
while not stop:
  x = x * 10
  q = x // d
  leng = leng + 1
  print(leng, ":", q)
  time.sleep(0.5)
  x = x \% d
  if x == 0:
     stop = True
```

これだと無限に 小数を出し続ける 場合がある!!

# プログラムの考え方

x/d を小数として表示する. ただし, x < d



# まとめ: Python (1)

### 【演算子】

演算	使用例	意味
+	x + y	x と y の足し算
-	x - y	x から y の引き算
*	x * y	xとyの掛け算
11	x // y	x を y で割った商
%	x % y	x を y で割った余り
**	x ** y	xのy乗

## 【関係演算子】

関係	使用例	意味
>=	x >= y	x は y より大きいかまたは等しい
>	x > y	x は y より大きい
==	x == y	x は y と等しい
!=	x != y	x は y は等しくない
<	x < y	x は y より小さい
<=	x <= y	x は y より小さいかまたは等しい

# まとめ: Python (2)

### 【論理演算子】

論理記号	使用例	意味
and	x and y	xとyの論理積 (両方が真のとき真)
or	x or y	xとyの論理和(少なくとも一方が真のとき真)
not	not x	x の否定 (x が真のとき偽, x が偽のとき真)

# まとめ: Python (3)

【配列】 配列の作成 [0,0,-5,4]

[0] \* 4 各要素の初期値が 0, 要素数が4の配列

要素の参照 aa[i] aa o i 番目(添え字 i は 0 から)

大きさ len(aa) 配列 aa の長さ(=要素数)

※「添え字」は「インデックス」(index) ともいう.

【文字列】<sub>文字列定数 "TokyoTech"</sub>

指定方法 s[i] s の i 文字目(添え字 i は 0 から)

長さ len(s) 文字列 s の長さ

連結 "Tokyo" + "Tech"

# まとめ: Python(4)

#### 【繰り返し文】

```
while 条件式: 

--- 条件式が成立している間 --- を繰り返す
```

#### 【条件分岐文】

```
if 条件式:

••(A) •• ← 条件式が成立したときは ••(A) ••を実行

else:

••(B)•• ← そうでないときは ••(B) ••を実行
```

省略可

# まとめ: Python (5)

#### 【文字】

文字からコード ord("a") ← 文字 a のASCIIコード

コードから文字 chr(97) ← ASCIIコード が 97 の文字

#### 【入出力】

print(a,b, "hello", c) ← 変数 a, b の値, 文字列 hello, 変数 c の 値を空白で区切って画面に表示する